

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「一人ひとりの花を咲かせよう！ そしてともに輝こう！」をキャッチフレーズに、
児童生徒一人ひとりが日々輝き、卒業後にいきいきと社会生活を送ることができるよう、
以下の学校づくりを行う。

- 1 知的障がい教育の理論と実践の積み重ねに裏付けられた専門性の高い教育を行う学校
- 2 保護者や地域の人たちとともに児童生徒の一つひとつの成長を喜び合う学校
- 3 教職員がいきいきと働く学校
- 4 地域の小中学校等が自立して支援教育を推進することをサポートする学校

2 中期的目標

1 知的障がい教育の専門性向上

〈学校教育自己診断の保護者評価「指導方針に共感」R7:90%以上 [R2:87%、R3:87%、R4:83%]〉

キャッチフレーズ：「寝屋川支援プライド ～誇りをもって～」

- (1) 卒業後の自立に向けた生徒一人ひとりに応じた教育を実践する（自閉スペクトラム症の特性に応じた指導・支援を含む）
 - ア 正確なアセスメントを行う
 - イ 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う
 - ウ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する
 - エ シラバスを活用する
 - オ 小中学部からのキャリア教育を推進する
- (2) 卒業後を見据えた進路指導を充実させる
 - ア コース制での学習の充実
 - イ 卒業後の社会参加と自立を見据えた効果的な進路指導
 - ウ 生徒の職業観を養い主体的な進路選択につなげる
- (3) 時代にマッチした教育理論を構築する
 - ア カリキュラム・マネジメントを充実させる
 - イ 教科横断的な教育課程を編成する
 - ウ 主体的・対話的で深い学びを充実させる
 - エ 特別の教科道徳を推進する
 - オ ICTを活用した取組みを推進する
 - カ 防災に努める
 - キ 人権感覚を育む
- (4) 次世代教員を育成する
 - ア 人権感覚を高める
 - イ メンターを育成する
 - ウ 強い組織を再構築する

2 保護者・地域・関係機関との連携

〈学校教育自己診断の保護者評価肯定的評価（全体平均）R7:85%以上 [R2:85%、R3:84% R4:78%]〉

キャッチフレーズ：「分かり合い ともに子どもを 育てよう！」

- (1) 保護者との連携を深める
 - ア ICTを活用した連携を進める
 - イ 保護者が悩みを専門医に相談できる機会を作る
- (2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する
 - ア あいさつ運動を展開する
 - イ 自主単独通学生徒を増やす
 - ウ 民間委託された給食室との連携を図る
 - エ 寝屋川公園に作品展示を行う
- (3) わかりやすい最新の情報発信を行う

3 働き方改革 〈学校教育自己診断の教職員肯定的評価「業務の効率化・平準化」R7:55% [R3新設:51%R4:45%]〉

キャッチフレーズ：「魅力ある授業づくりは教職員の健康から！」

- (1) 同僚性の高い職場づくりを行う
 - ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる
 - イ 定時退庁できる雰囲気づくりを行う
- (2) 業務の効率化・平準化を行う
 - ア デジタル化を推進する
 - イ PC内の構造化と仕事の見える化を行う
 - ウ 物品・環境の管理・整理方法を見直す
 - エ 個人情報処理業務を削減する
- (3) 業務推進体制を再構築する
 - ア 首席を学校経営の要として配置する
 - イ 指導教諭の円滑な全校指導体制を構築する
 - ウ 新しい校務分掌体制を整理する
 - エ 学校経営計画を共有する
 - オ 授業と学校行事の連動性を高める

4 地域支援 〈地域のスキルアップのため、各校への訪問相談について、各市の教育委員会と協同で実施 100%〉

キャッチフレーズ：「地域の自立をサポート！」

- (1) 地域との連携強化を図る
 - ア 地域のスキルアップを図る
 - イ 研修講師の派遣を行う
- (2) 学校全体で地域支援を行う

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標 (推進部署)	具体的な取組計画・内容 (太文字下線部分はキャッチフレーズ)	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 知的障がい教育の専門性向上	(1) 卒業後の自立に向けた生徒一人ひとりに応じた教育を実践する(自閉スペクトラム症の特性に応じた指導・支援を含む)	(1)	(1)	
	ア 正確なアセスメントを行う 〈高等部・支援研究部・進路指導部〉	ア <u>明日を拓くキャリア教育プログラム！</u> <u>進路への道標！</u> ・「キャリア教育プログラム」によるアセスメントを行い、希望する進路に向けて身に着きたい能力を保護者と共通の指標とする。	ア ・保護者と達成状況を1回以上確認 ・実習評価で得られた情報はキャリア教育プログラムの項目にも反映。	
	イ 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う 〈支援研究部〉	イ <u>コミュニケーションを広げよう！</u> ・PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)の導入を拡大し活用する。 <u>子どもの言葉に耳を傾けよう！</u> ・児童生徒の発達段階に応じたコミュニケーションツールを用い、子どもの言葉や考えを聞き取る双方向の指導を進める。	イ ・全校で PECS の研修と、PECS を活用している施設見学を7～8月に実施し、全校的な活用を進める。 ・自立活動時に、言葉や絵カード、サイン等で意思表示ができたか確認。	
	ウ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する 〈支援研究部〉	ウ <u>わかる・できる・ほめる！</u> ・「観察シート」を活用した授業づくり、自立活動についての研究協議や学び合いの場の促進を図る。	ウ 学校教育自己診断の保護者評価 「一人ひとりに応じた教育」70%[66%] 「学校に対する意識に関するもの」80%[77%] ・授業研究及び協議への参加、全員1回以上。 ・授業参観又は授業動画視聴を全員1回以上。 ・学期毎に教室環境の確認。	
	〈高等部・支援研究部〉	<u>授業に全集中！</u> ・生徒が授業に集中できるよう掲示板や机の上に物を置かない等、教室の環境整備に努める。 ・自立活動やその他の教材を整理し、いつでも使用可能にする。	・自立活動の教材の貸し出し回数が30回以上。	
	エ シラバスを活用する 〈教務部〉	エ <u>寝屋川シラバス」で12年間つなげます！</u> ・シラバスを活用した学習の定着状況の確認するため、1学期終了後、計画に問題点がないか教員にアンケートを実施。問題点があれば修正して次年度につなげる。	エ R6年度に向けた運用シラバス(年間計画)の作成。	
	オ 小中学部からのキャリア教育を推進する 〈高等部・生活指導部〉	オ <u>～絆～小中高みんな仲間！</u> ・学校行事ごとに児童・生徒会が同じ目標をもって活動できるようにスローガンを作成する。 <u>そうだ、先輩に聞こう！</u> ・小中学部と自立活動や職業の授業等で交流を行い、一緒に活動を行う中で共に学ぶ機会を設ける。	オ ・昼の放送や掲示板を活用し、児童生徒会の役員がスローガンを全校に発表する。 ・各取組みにて、先輩の姿を見た後輩から「あなりたい」との感想を得る。 ・年間に4回以上、学部間で交流する。	
	(2) 卒業後を見据えた進路指導を充実させる	(2)	(2)	
	ア コース制での学習の充実 〈高等部・進路指導部〉	ア <u>小さなスキルアップの積み重ね ～卒業後を見据えて、一回り成長していく自分！</u> ・産業現場との連携や外部講師の招へいによる実践的、専門的な学習を行う。 ・コースごとに生徒の実態に応じた系統的な清掃学習を導入し、校内校外で実習に取組む。	ア ・各学年で職場見学や外部講師による授業を年1回以上実施。 ・各学年で年10回以上実施。	
	イ 卒業後の社会参加と自立を見据えた効果的な進路指導 〈高等部・進路指導部〉	イ <u>HOP STEP JOB! ～ここから、始まる～</u> ・生徒自身による主体的な進路決定に繋げるため、2年次の体験実習の回数を1回増やす。 ・高等部全学年で販売週間「職業バザールウィーク」を新設し、2月に実施する。 ・保護者が進路を考える上で必要な情報が得られるよう、8月までに情報発信の強化を行う。	イ ・2年次の体験実習を2回企画、実施。 ・「職業バザールウィーク」の企画、実施。 ・事業所紹介冊子、進路だよりの情報をリニューアルし発行する。	
ウ 生徒の職業観を養い主体的な進路選択につなげる。 〈高等部・支援部・進路指導部〉	ウ <u>フレッシュアップ！職業教育！</u> ・夏季休業中に講師による研修を実施し、教員の職業教育スキルアップ、授業・教材を充実させる。	ウ ・講師による研修を夏期休業中に1回以上実施。		
(3) 時代にマッチした教育理論を構築する	(3)	(3)		
ア カリキュラム・マネジメントを充実	ア <u>「カリ・マネ」ってなにかね？</u> <u>～はじめの大1歩！～</u>	ア ・カリ・マネ通信の発行。(学期1回) ・1学期中に研修の実施。(学期1回)		

府立寝屋川支援学校（高等部）

	<p>させる 〈教務部・担当首席〉</p> <p>イ 教科横断的な教育課程を編成する 〈教務部〉</p> <p>ウ 主体的・対話的で深い学びを充実させる 〈支援研究部〉</p> <p>エ 特別の教科 道徳を推進する 〈指導教諭〉</p> <p>オ ICTを活用した取組みを推進する 〈GIGAPT〉</p> <p>カ 防災に努める 〈生活指導部・担当首席〉</p> <p>キ 人権感覚を育む 〈高等部・生活指導部〉</p> <p>(4) 次世代教職員を育成する</p> <p>ア 人権感覚を高める 〈管理職〉</p> <p>イ メンターを育成する 〈指導教諭〉</p> <p>ウ 強い組織を再構築する 〈管理職〉</p>	<p>・カリキュラム・マネジメントの考え方を研修や通信を通して周知し、教職員それぞれが「カリ・マネ」を意識し、全校的な運営を行う。</p> <p>イ 「行事」「授業」つなげます！ ・行事・授業・事前学習等の内容を見直し、教科横断的な教育課程・授業を設定する。</p> <p>ウ めざせ！「主体的・対話的で深い学び」 ・指導教諭が授業に入り込み指導を行い、主体的・対話的で深い学びの視点がある指導案の作成と研究授業を実施。（10年経験者）</p> <p>エ 道徳教育を豊かに！ ・知的障がい特別支援学校の道徳科指導案や教材を収集して研究する。</p> <p>オ これが自分のタブレット！ ・児童生徒の実態に応じた、1人1台端末活用を促進するため、生徒に1人1台を紐づけて活用する。 ・端末の各種アプリケーション活用のための配備を行う。 やってみよう！クラスルーム ・年齢や発達段階に応じてストリーム投稿に係る操作・手順について授業に位置付ける。</p> <p>カ 防犯はもう常識！防災はもう日常！ ・BCP（事業継続計画）を活用した防災研修・防災訓練を行うと共に、防犯研修も行う。</p> <p>キ 「知ろう 学ぼう 人権知識！」 ・情報モラルについては全学年実施し、ICT機器を通じたコミュニケーション指導を行う。</p> <p>(4)</p> <p>ア 磨こう人権感覚！ほかほかと温かい心！ ・年度当初は職員会議等で、注意喚起を行い、2学期に不祥事防止に向けたワークシート集を活用するなど、体罰、不適切な指導等の防止に努める。</p> <p>イ チーム力を発揮した授業づくり！ ・初任者は初任研で学びを深め、指導教諭はメンティーとして、指導教諭3者によるチームでの授業研究を実施する。 ・年度初めに3者で、役割・目標・スケジュールを確認し、年間計画を作成。 ・指導案作成、研究授業、事前・事後授業等を3者で協議しながら進める。</p> <p>ウ 世代・経験に応じた活躍の場！ ・経験年数の少ない教員は新しい学びにチャレンジ、ミドル教員は学校をけん引、ベテラン教員は専門性の継承に、それぞれが努める。</p>	<p>イ ・教務部内に係を設け、教科横断的な教育課程を作成する。</p> <p>ウ ・10年経験者による研究授業の実施。</p> <p>エ ・道徳科の授業実践に係る「教材」「指導案」等について共有する。</p> <p>オ 学校教育自己診断の保護者評価 「1人1台端末の活用」50%〔38%〕 ・児童生徒が端末を効果的に活用する授業づくりのための研修年1回。 ・端末活用をリードする学習グループの実践共有。 ・ストリーム投稿に係る授業を全学年実施する。 ・長期休暇時の家庭・学校間のストリーム投稿の実施。</p> <p>カ ・実際の災害時を想定した避難訓練実施。年3回 （火災避難訓練1回、火災避難訓練＋地震避難訓練1回、Jアラート避難訓練1回） ・避難訓練前に事前指導を行うと共に、希望する学級で備蓄食の食事体験を実施。</p> <p>キ 各学年、学期1回以上人権学習を実施</p> <p>(4)</p> <p>ア ・体罰・不適切な指導を起こさせないための人権研修を年1回実施。 ・学校教育の自己診断の教職員評価「人権尊重の姿勢」90%以上〔85%〕 ・学校教育の自己診断の教職員評価「人権尊重の姿勢」90%以上〔85%〕</p> <p>イ ・教育実習生、初任者の指導のための、「指導案作成」「授業づくり」の全校研修実施。年1回 ・教育実習生の指導教員の相談役として指導教諭を位置付ける。</p> <p>ウ ・学校教育自己診断教職員評価 「次世代教職員の育成」75%〔70%〕 「学校経営への参画」55%〔49%〕 「教職員での話し合い」77%〔72%〕</p>	
<p>2 保護者・地域・関係機関との連携</p>	<p>(1) 保護者との連携を深める</p> <p>ア ICTを活用した連携を進める 〈GIGAPT・担当首席〉</p> <p>イ 保護者が悩みを専門医に相談できる機会を作る 〈保健室〉</p> <p>(2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する</p> <p>ア あいさつ運動を展開する 〈生活指導部〉</p> <p>イ 自主単独通学生徒を増やす 〈高等部・生活指導部〉</p> <p>ウ 民間委託された給食室との連携を図る 〈健康教育部〉</p> <p>エ 寝屋川公園に作品展示を行う。 〈管理職〉</p>	<p>(1)</p> <p>ア ICTの活用で、もっとつながる家庭と学校！ ・ストリーム投稿等、ICT活用の理解推進とルールの周知を行い、新1年生のパスワード及び学習支援クラウドサービスの運用を行う。 写真もWebの時代！ ・写真販売をWebで行い、保護者の生活時間の確保、円滑な連携を図る。</p> <p>イ ようこそ相談室へ！ ・小児発達・精神科の専門医に保護者をはじめ、だれでも気軽に相談できる場を設定するため、eメッセージで保護者に周知。</p> <p>(2)</p> <p>ア 愛さつ運動で通じる心、つながる気持ち！ ・挨拶推進月間を通して挨拶の習慣づけを行い、朝の散歩等で地域の人への積極的な挨拶により、互いの理解を深める。</p> <p>イ 身につけよう応用力！ ・保護者と連携し、自主単独通学を通して社会的自立に向けた生活力・応用力を育てる。</p> <p>ウ 開かれた給食室！ ・民間委託となる調理員に児童生徒がインタビューする等、給食について知る機会を設定する。</p> <p>エ 作品展示を通じた地域との繋がり強化！ ・寝屋川公園内「森の展示室」に出展し、地域の方々と作品を通じた交流を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・クラウドサービスの安全性と活用の理解のための通信作成及び説明会を1学期に実施。 ・写真販売システムの導入。</p> <p>イ ・学期に2回以上の実施。</p> <p>(2)</p> <p>ア ・挨拶推進月間の実施。各学期1回 ・年間を通しての挨拶運動実施。</p> <p>イ ・社会的自立に向けた目標設定と振り返りを前期・後期に実施。</p> <p>ウ ・児童生徒によるインタビュー。年1回 ・給食についての動画の作成。</p> <p>エ 年間2回以上の出展。</p>	

府立寝屋川支援学校（高等部）

	(3) わかりやすい最新の情報発信を行う〈情報教育部〉	(3) 学校のこと、伝えます！ ・ホームページを活用した、最新の情報発信に努める。	(3) ・定期更新とメンテナンス 50 回以上。
3 働き方改革	(1) 同僚性の高い職場づくりを行う ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる〈管理職〉 イ 定時退庁できる雰囲気づくりを行う〈管理職〉	(1) ア 1に健康 2に生活 3がなくて 5に仕事！ ・働き方改革を推進し、ワーク・ライフ・バランスを向上させる。 イ あっ！定時や！か～えろっと！ ・会議日程や書面開催等を検討すると共に、管理職も早く退勤し、教職員が退勤しやすい職場づくりを行う。	(1) ア ・ストレスチェックの総合健康リスクを今年度より上回る。〔105〕 イ ・時間外勤務実績 R3年度比 10%削減。〔R4 4月～12月実績 22,220H〕
	(2) 業務の効率化・平準化を行う ア デジタル化を推進する〈情報教育部・教務部〉 イ PC 内の構造化と仕事の見える化を行う〈担当首席〉 ウ 物品・環境の管理・整理方法を見直す〈教育環境部〉 エ 個人情報処理業務を削減する〈管理職〉	(2) ア 1(いつも) C(ちょっと) T(トライ) できるICT活用！ ・指導者の ICT 活用能力を高めると共に、適切な機器管理を進め、独自システムの持続的・効率的な運用と体制づくりを行う。 乗るしかない！このビッグウェーブ！ ・ICT 活用を更に促進し、「教材 BANK」「できるもん活用（授業アイデア集）」の活用を促進させる。 教材もアイデアもリユースがスタンダード！ ・作成した「教材 BANK」「授業できるもん」を活用し、教材作成の時間を短縮する。 イ 仕事サクサク・効率アップ！ ・構造化した PC の活用を進めるため、セキュリティモードとインターネットモードの活用方法を明確にする。 ウ ひと・もの 大切に！ ・備品、教材等の管理と整理を行う。 むり・ムラ・無駄ない安心安全な学校！ ・校内安全点検を実施し、教育環境を整える。 エ 溶解にして、他の仕事しようかい！ ・年度末個人情報処理を、シュレッダーから溶解に変更し、業務軽減を図る。	(2) ア ・活用スキルの段階別研修実施 1 回以上。 ・備品管理台帳の作成と管理。 ・システム運用のための人材育成研修 1 回以上。 ・「教材 BANK」「できるもん活用」の全教科作成。 イ ・セキュリティモードとインターネットモードのデータ移行が完了する。 ウ ・各部の職員室ロッカー、教材倉庫の整理整頓の実施。（各学期 1 回） ・毎月の安全点検の実施とフィードバック。 エ ・溶解処理の計画・実施を行う。
	(3) 業務推進体制を再構築する ア 首席を学校経営の要として配置する〈管理職〉 イ 指導教諭の円滑な全校指導体制を構築する〈管理職〉 ウ 新しい校務分掌体制を整理する〈管理職・教務部〉 エ 学校経営計画を共有する〈管理職〉 オ 授業と学校行事の連動性を高める〈高等部・健康教育部〉	(3) ア 強化します！首席間連携・教頭との連携 ・総括首席を指名すると共に、首席を教頭補佐として連携を更に強化する。 イ 全校見守る指導教諭！ ・指導教諭が学部を超えて、教員の授業力向上を図る。 ウ 変わるらしいで～ (知らんけど！とは言ってもらへんで) ・分掌改編に合わせて役割を具体化し、次年度へ引き継ぐシステムの整理。 エ みんなで見よう！学校経営計画 ・校内に拡大した学校経営計画を掲示し、目標の実現に向け教職員で共有する。 オ 競技中心、準備の少ない運動会へ！ ・マスの時間を短縮し、充実した運動会の企画を行う。	(3) ア ・総括首席を指名する。 ・首席を教頭補佐とする。 イ ・指導教諭が全校の初任者・10 年経験者・指導教員の指導にあたる。 ウ ・学校教育自己診断の教職員評価「業務の効率化・平準化」60%以上〔58%〕 エ 校内に拡大した学校経営計画を掲示する。 オ ・マスゲームを 10 分以内で実施。 ・運動会実施後教員向けアンケートの「昨年度と比較した負担感」で肯定的評価 60%以上。
4 地域支援	(1) 地域との連携強化を図る ア 地域のスキルアップを図る〈支援研究部、LS、指導教諭〉 イ 研修講師の派遣を行う〈支援研究部、LS、指導教諭〉	(1) ア Power of connect (連携強化) ・各市の教育委員会との連携を図り、訪問相談をより充実させると共に、地域のコーディネーターのスキルアップを図る。 イ 夢中になれる学びの場！ ・市教育委員会・学校園からの要請を受け、研修講師の派遣を行う。	(1) ア ・「訪問相談・来校アンケート」の北河内地域の肯定的評価を上げる。 イ ・すべての要請に対応する。今年度の実績〔支援回数 57 回（訪問・来室・電話相談、研修講師）〕
	(2) 学校全体で地域支援を行う〈支援研究部、LS、指導教諭〉	(2) Co development (コーディネーター育成) ・登録相談員制度に教職員全員が登録し、一緒に訪問に行くことで、次世代のリーディングスタッフとコーディネーターの育成に努める。	(2) ・LS 以外の教員との訪問相談 3 回以上。